

調査結果の概要

I 発育状態

1 身長（表1、図1）

(1) 平成27年度の男子の身長は、5歳、7歳、10歳、11歳、13歳及び15歳から17歳で前年度の同年齢より高くなっている。また、6歳、9歳、12歳で前年度の同年齢より低くなっている。その他の年齢では、前年度と同じ数値となっている。

女子の身長は、5歳、7歳、12歳、15歳で前年度の同年齢より高くなっている。また、8歳から11歳、14歳及び17歳で前年度の同年齢より低くなっている。その他の年齢では、前年度と同じ数値となっている。

(2) 平成27年度の身長を親の世代(30年前の昭和60年度の数値)と比較すると、最も差がある年齢は、男子では13歳で2.2cm、女性では10歳で1.1cmそれぞれ高くなっている。

表1 年齢別 身長の平均値 (cm)

区分	年齢	男子					女子				
		平成27年度 A	平成26年度 B	前年度差 A-B	昭和60年度 C(親の世代)	世代間差 A-C	平成27年度 A	平成26年度 B	前年度差 A-B	昭和60年度 C(親の世代)	世代間差 A-C
幼稚園	5歳	110.8	110.7	0.1	110.8	-	109.8	109.7	0.1	110.4	△0.6
	6歳	116.6	116.8	△0.2	117.1	△0.5	115.8	115.8	-	116.1	△0.3
小学校	7歳	122.9	122.7	0.2	122.9	-	122.2	121.3	0.9	121.5	0.7
	8歳	128.4	128.4	-	128.0	0.4	127.3	127.6	△0.3	127.3	-
	9歳	133.8	134.0	△0.2	133.5	0.3	134.2	134.5	△0.3	133.2	1.0
	10歳	139.5	139.4	0.1	139.2	0.3	140.5	140.6	△0.1	139.4	1.1
	11歳	145.8	145.5	0.3	144.5	1.3	147.2	147.5	△0.3	146.3	0.9
中学校	12歳	153.1	153.5	△0.4	151.2	1.9	152.2	152.0	0.2	151.7	0.5
	13歳	160.9	160.3	0.6	158.7	2.2	155.0	155.0	-	155.4	△0.4
	14歳	165.8	165.8	-	164.7	1.1	156.9	157.1	△0.2	157.3	△0.4
高等学校	15歳	169.3	168.9	0.4	168.3	1.0	157.5	157.3	0.2	157.7	△0.2
	16歳	170.7	170.6	0.1	169.9	0.8	158.0	158.0	-	157.9	0.1
	17歳	171.8	171.7	0.1	171.5	0.3	157.9	158.4	△0.5	158.1	△0.2

2 体重（表2、図1）

(1) 平成27年度の男子の体重は、7歳、11歳から13歳、15歳及び16歳で前年度の同年齢より増加している。また、5歳、6歳、8歳から10歳、14歳及び17歳で前年度の同年齢より減少している。

女子の体重は、5歳から7歳、12歳から14歳及び16歳で前年度の同年齢より増加している。また、8歳から11歳及び17歳で前年度の同年齢より減少している。15歳では前年度と同じ数値となっている。

(2) 平成27年度の体重を親の世代(30年前の昭和60年度の数値)と比較すると、最も差がある年齢は、男子では15歳で2.5kg重くなっており、女子では17歳で1.4kg軽くなっている。

表2 年齢別 体重の平均値 (kg)

区分	年齢	男子					女子				
		平成27年度 A	平成26年度 B	前年度差 A-B	昭和60年度 C(親の世代)	世代間差 A-C	平成27年度 A	平成26年度 B	前年度差 A-B	昭和60年度 C(親の世代)	世代間差 A-C
幼稚園	5歳	18.8	18.9	△0.1	19.1	△0.3	18.5	18.3	0.2	18.9	△0.4
小学校	6歳	21.5	21.7	△0.2	21.6	△0.1	21.2	21.0	0.2	20.9	0.3
	7歳	24.2	23.8	0.4	24.2	-	23.7	23.5	0.2	23.3	0.4
	8歳	27.0	27.1	△0.1	26.9	0.1	26.2	26.5	△0.3	26.4	△0.2
	9歳	30.3	30.5	△0.2	30.0	0.3	30.4	30.6	△0.2	29.4	1.0
	10歳	34.1	34.3	△0.2	34.2	△0.1	34.1	34.4	△0.3	33.4	0.7
	11歳	38.8	38.5	0.3	37.5	1.3	39.1	39.2	△0.1	38.4	0.7
中学校	12歳	44.8	44.3	0.5	42.7	2.1	43.5	43.2	0.3	43.4	0.1
	13歳	49.8	48.9	0.9	47.8	2.0	47.1	47.0	0.1	47.5	△0.4
	14歳	54.0	54.6	△0.6	53.9	0.1	50.3	50.1	0.2	50.1	0.2
高等学校	15歳	60.7	58.9	1.8	58.2	2.5	51.9	51.9	-	52.7	△0.8
	16歳	62.1	61.1	1.0	60.7	1.4	52.7	52.0	0.7	52.9	△0.2
	17歳	63.0	63.5	△0.5	63.1	△0.1	52.3	52.7	△0.4	53.7	△1.4

3 座高（表3、図1）

- (1) 平成27年度の男子の座高は、7歳、10歳及び13歳から16歳で前年度の同年齢より高くなっている。また、6歳、9歳で前年度の同年齢より低くなっている。その他の年齢では前年度と同じ数値となっている。
- 女子の座高は、7歳、13歳で前年度の同年齢より高くなっている。また、6歳、8歳、9歳、11歳及び14歳から17歳で前年度の同年齢より低くなっている。その他の年齢では前年度と同じ数値となっている。
- (2) 平成27年度の座高を親の世代(30年前の昭和60年度の数値)と比較すると、最も差がある年齢は、男子では12歳で1.1cm高くなっており、女子では5歳で0.9cm低くなっている。

表3 年齢別 座高の平均値

(cm)

区分		男子					女子				
		平成27年度 A	平成26年度 B	前年度差 A-B	昭和60年度 C(親の世代)	世代間差 A-C	平成27年度 A	平成26年度 B	前年度差 A-B	昭和60年度 C(親の世代)	世代間差 A-C
幼稚園	5歳	61.7	61.7	-	62.6	△0.9	61.4	61.4	-	62.3	△0.9
小学校	6歳	65.0	65.2	△0.2	65.8	△0.8	64.6	64.8	△0.2	65.1	△0.5
	7歳	67.9	67.7	0.2	68.4	△0.5	67.6	67.4	0.2	67.6	-
	8歳	70.4	70.4	-	70.6	△0.2	69.9	70.1	△0.2	70.2	△0.3
	9歳	72.7	73.0	△0.3	73.0	△0.3	73.1	73.3	△0.2	72.8	0.3
	10歳	75.4	75.3	0.1	75.4	-	76.1	76.1	-	75.6	0.5
	11歳	78.0	78.0	-	77.5	0.5	79.4	79.7	△0.3	79.1	0.3
中学校	12歳	81.9	81.9	-	80.8	1.1	82.4	82.4	-	82.1	0.3
	13歳	85.8	85.4	0.4	84.5	1.3	84.2	84.0	0.2	84.1	0.1
	14歳	88.7	88.6	0.1	87.8	0.9	85.2	85.3	△0.1	85.1	0.1
高等学校	15歳	90.9	90.7	0.2	90.0	0.9	85.6	85.7	△0.1	85.6	-
	16歳	91.7	91.6	0.1	90.9	0.8	85.8	85.9	△0.1	85.6	0.2
	17歳	92.6	92.6	-	91.8	0.8	85.6	85.9	△0.3	85.7	△0.1

4 平均体格（表4、図1、別表1）

平成27年度の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校における幼児、児童及び生徒の身長、体重及び座高の平均値を年齢別、男女別にみると次のとおりである。

表4 年齢別、男女別体格の平均値と男女差

区分		身長 (cm)			体重 (kg)			座高 (cm)		
		男子 A	女子 B	差 A-B	男子 A	女子 B	差 A-B	男子 A	女子 B	差 A-B
幼稚園	5歳	110.8	109.8	1.0	18.8	18.5	0.3	61.7	61.4	0.3
小学校	6歳	116.6	115.8	0.8	21.5	21.2	0.3	65.0	64.6	0.4
	7歳	122.9	122.2	0.7	24.2	23.7	0.5	67.9	67.6	0.3
	8歳	128.4	127.3	1.1	27.0	26.2	0.8	70.4	69.9	0.5
	9歳	133.8	134.2	△0.4	30.3	30.4	△0.1	72.7	73.1	△0.4
	10歳	139.5	140.5	△1.0	34.1	34.1	-	75.4	76.1	△0.7
	11歳	145.8	147.2	△1.4	38.8	39.1	△0.3	78.0	79.4	△1.4
中学校	12歳	153.1	152.2	0.9	44.8	43.5	1.3	81.9	82.4	△0.5
	13歳	160.9	155.0	5.9	49.8	47.1	2.7	85.8	84.2	1.6
	14歳	165.8	156.9	8.9	54.0	50.3	3.7	88.7	85.2	3.5
高等学校	15歳	169.3	157.5	11.8	60.7	51.9	8.8	90.9	85.6	5.3
	16歳	170.7	158.0	12.7	62.1	52.7	9.4	91.7	85.8	5.9
	17歳	171.8	157.9	13.9	63.0	52.3	10.7	92.6	85.6	7.0

(注) 網掛けの部分は、調査実施以来最高を示す。

(1) 各年齢間の体格差

① 身長

男子は、12歳と13歳の間が7.8cmと最も大きく、16歳と17歳の間が1.1cmと最も小さい。女子は、8歳と9歳の間が6.9cmと最も大きく、15歳と16歳の間が0.5cmと最も小さい。

② 体重

男子は、14歳と15歳の間が6.7kgと最も大きく、16歳と17歳の間が0.9kgと最も小さい。女子は、10歳と11歳の間が5.0kgと最も大きく、15歳と16歳の間が0.8kgと最も小さい。

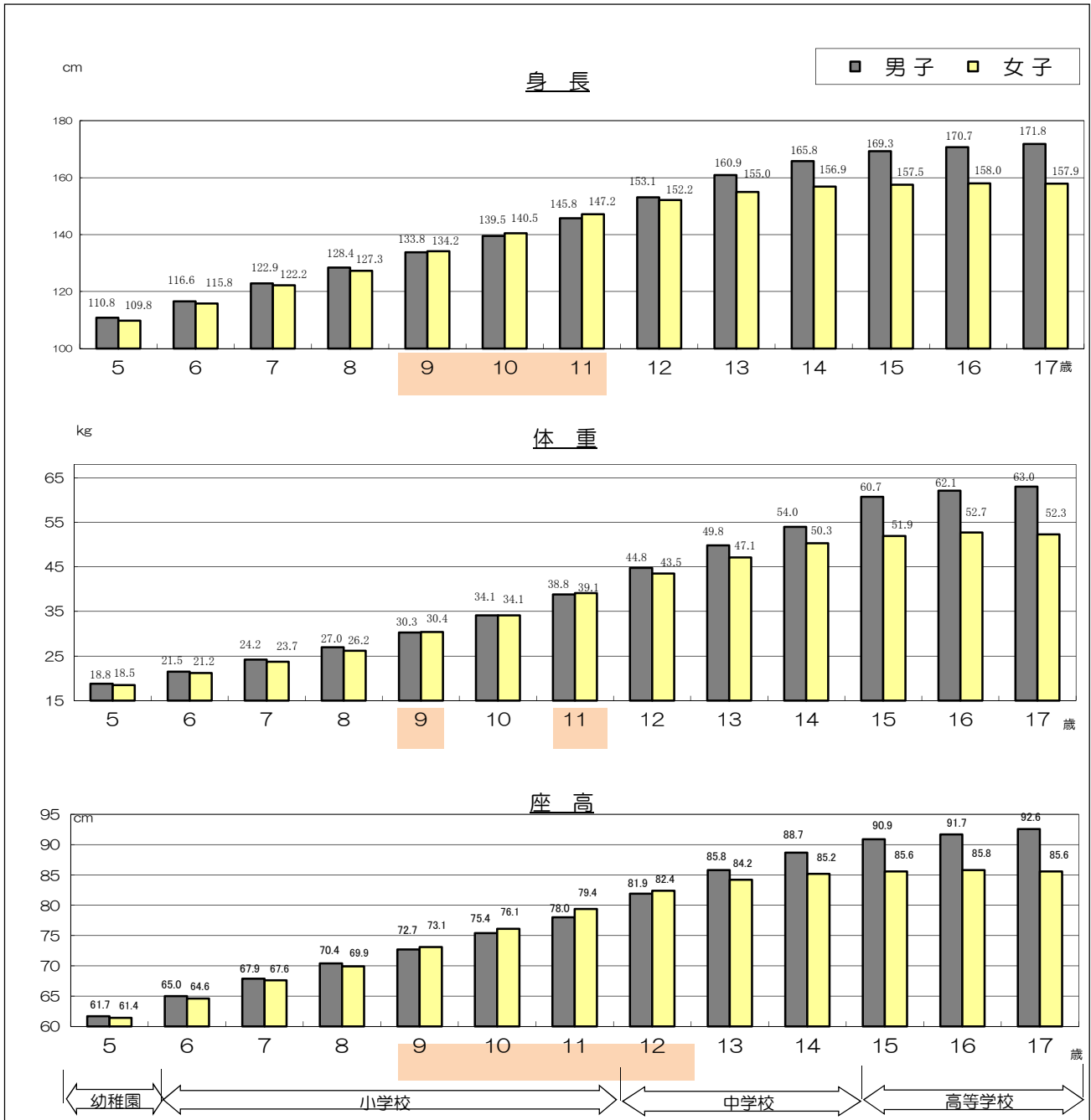
③ 座高

男子は、11歳と12歳、12歳と13歳の間が3.9cmと最も大きく、15歳と16歳の間が0.8cmと最も小さい。女子は、10歳と11歳の間が3.3cmと最も大きく、15歳と16歳が0.2cmと最も小さい。

(2) 男女の体格差

女子が男子を上回る発育年齢は、身長では9歳～11歳、体重では9歳と11歳、座高では9歳～12歳で、その差の最大は、身長では11歳の1.4cm、体重では11歳の0.3kg、座高では11歳の1.4cmとなっている。この時期を過ぎると男子が女子を上回り、17歳での差は、身長13.9cm、体重10.7kg、座高7.0cmとなっている。

図1 男女別、年齢別平均体格



5 30年前(昭和60年度)の体格との比較 (表5、別表2)

平成27年度と30年前の昭和60年度の体格を比較してみると、男子は5歳から7歳までの身長、5歳から7歳までと10歳、17歳の体重、5歳から10歳までの座高、女子は、5歳・6歳・8歳・13歳から15歳までと17歳の身長、5歳・8歳・13歳と15歳から17歳までの体重、5歳から8歳までと15歳、17歳の座高を除くすべてにおいて向上している。

(1) 17歳(高校3年生)の体格の比較

17歳の体格を比較すると、30年前に比べて男子は身長が0.3cm高く、体重が0.1kg少なく、座高が0.8cm高くなっている。女子は身長が0.2cm低く、体重が1.4kg少なく、座高が0.1cm低くなっている。

(2) 体格差の最も大きい年齢

30年前と比べ最も差の大きい年齢は、男子は身長13歳、体重15歳、座高13歳となっている。女子は身長10歳、体重17歳、座高5歳となっている。

表5 30年前の体格との比較

区分	身長 (cm)			体重 (kg)			座高 (cm)					
	平成 27年度 A	昭和 60年度 B	差 A-B	平成 27年度 A	昭和 60年度 B	差 A-B	平成 27年度 A	昭和 60年度 B	差 A-B			
男子	幼稚園	5歳	110.8	110.8	-	18.8	19.1	△0.3	61.7	62.6	△0.9	
		小学校	6歳	116.6	117.1	△0.5	21.5	21.6	△0.1	65.0	65.8	△0.8
	7歳		122.9	122.9	-	24.2	24.2	-	67.9	68.4	△0.5	
	8歳		128.4	128.0	0.4	27.0	26.9	0.1	70.4	70.6	△0.2	
	9歳		133.8	133.5	0.3	30.3	30.0	0.3	72.7	73.0	△0.3	
	10歳		139.5	139.2	0.3	34.1	34.2	△0.1	75.4	75.4	-	
	11歳		145.8	144.5	1.3	38.8	37.5	1.3	78.0	77.5	0.5	
	中学校	12歳	153.1	151.2	1.9	44.8	42.7	2.1	81.9	80.8	1.1	
		13歳	160.9	158.7	2.2	49.8	47.8	2.0	85.8	84.5	1.3	
		14歳	165.8	164.7	1.1	54.0	53.9	0.1	88.7	87.8	0.9	
	高等学校	15歳	169.3	168.3	1.0	60.7	58.2	2.5	90.9	90.0	0.9	
		16歳	170.7	169.9	0.8	62.1	60.7	1.4	91.7	90.9	0.8	
		17歳	171.8	171.5	0.3	63.0	63.1	△0.1	92.6	91.8	0.8	
	女子	幼稚園	5歳	109.8	110.4	△0.6	18.5	18.9	△0.4	61.4	62.3	△0.9
			小学校	6歳	115.8	116.1	△0.3	21.2	20.9	0.3	64.6	65.1
		7歳		122.2	121.5	0.7	23.7	23.3	0.4	67.6	67.6	-
		8歳		127.3	127.3	-	26.2	26.4	△0.2	69.9	70.2	△0.3
9歳		134.2		133.2	1.0	30.4	29.4	1.0	73.1	72.8	0.3	
10歳		140.5		139.4	1.1	34.1	33.4	0.7	76.1	75.6	0.5	
11歳		147.2		146.3	0.9	39.1	38.4	0.7	79.4	79.1	0.3	
中学校		12歳	152.2	151.7	0.5	43.5	43.4	0.1	82.4	82.1	0.3	
		13歳	155.0	155.4	△0.4	47.1	47.5	△0.4	84.2	84.1	0.1	
		14歳	156.9	157.3	△0.4	50.3	50.1	0.2	85.2	85.1	0.1	
高等学校		15歳	157.5	157.7	△0.2	51.9	52.7	△0.8	85.6	85.6	-	
		16歳	158.0	157.9	0.1	52.7	52.9	△0.2	85.8	85.6	0.2	
		17歳	157.9	158.1	△0.2	52.3	53.7	△1.4	85.6	85.7	△0.1	

6 30年前(昭和60年度)の発育量との比較 (表6、図2、別表5)

5歳から17歳まで12年間の総発育量と年間発育量の最も大きい年齢について、今年度調査の17歳(平成9年度生まれ)と30年前調査の17歳(昭和42年度生まれ)を比較すると、次のとおりである。

(1) 総発育量の比較

今年度17歳(平成9年度生まれ)の総発育量を30年前と比較すると、身長では、男子0.4cm減、女子1.0cm減、体重では、男子0.3kg減、女子1.6kg減、座高では、男子1.8cm増、女子も0.3cm増となっている。

(2) 年間発育量の最も大きい年齢

今年度17歳(平成9年度生まれ)の年間発育量をみると、男子は、身長・体重・座高で11歳時が最も大きく、女子は、身長では9歳時、体重では11歳時、座高では5歳時が最も大きい。

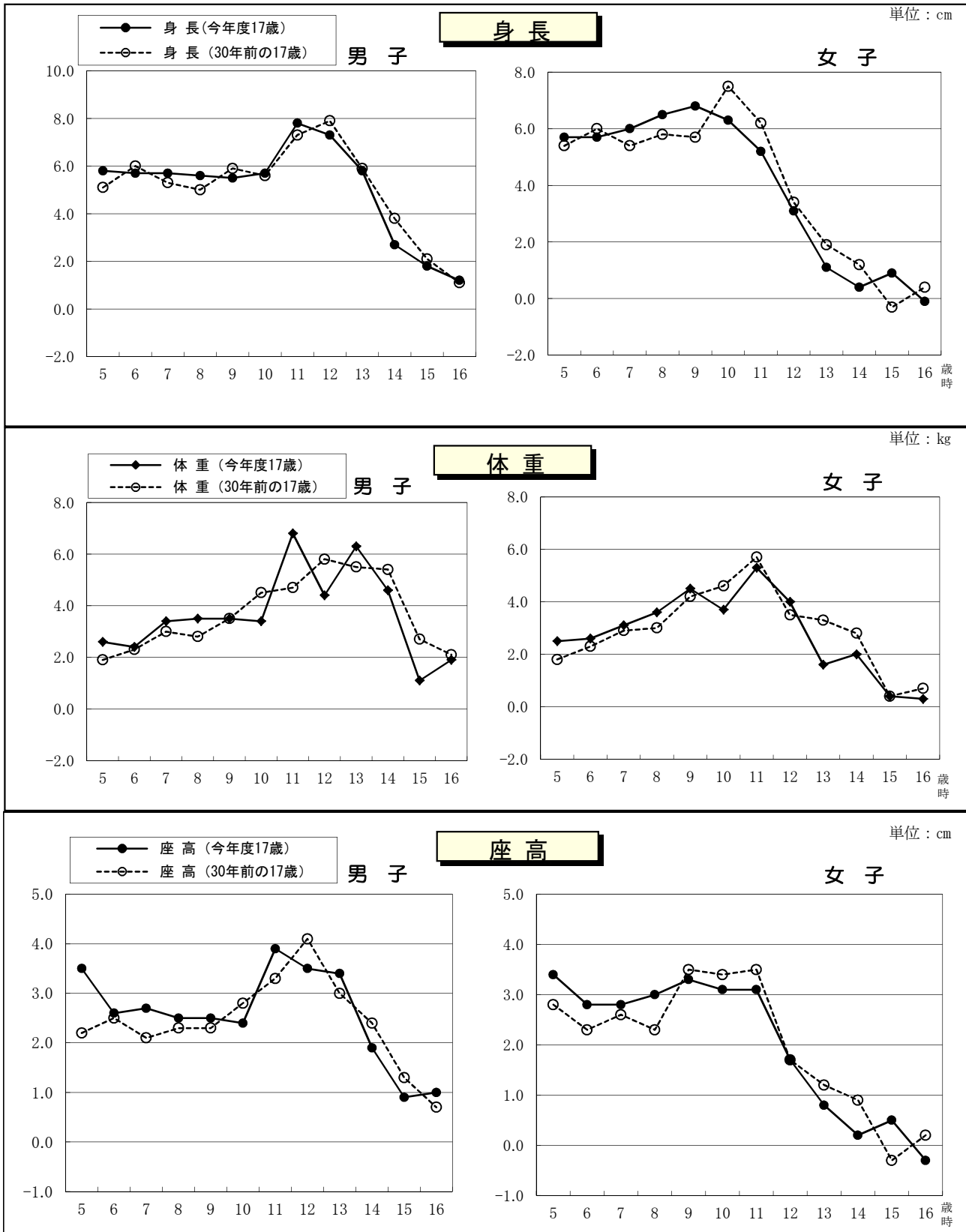
一方、30年前の17歳(昭和42年度生まれ)の年間発育量は、男子は身長・体重・座高とも12歳時が最も大きく、女子は身長は10歳時、体重は11歳児、座高は9歳・11歳時が最も大きい。

表6 年次別、男女別、発育量の比較

区 分	男 子				女 子				
	5歳時の体格	17歳時の体格	総発育量	年間発育量最大の年齢	5歳時の体格	17歳時の体格	総発育量	年間発育量最大の年齢	
身長 cm	昭和 42 年度生まれ	110.5	171.5	61.0	12歳時	109.5	158.1	48.6	10歳時
	52	110.7	171.1	60.4	12歳時	110.4	158.5	48.1	9歳時
	61	110.8	172.3	61.5	12歳時	110.0	158.1	48.1	10歳時
	4	110.9	171.3	60.4	11歳時	110.1	158.5	48.4	10歳時
	平成 9	111.2	171.8	60.6	11歳時	110.3	157.9	47.6	9歳時
体重 kg	昭和 42 年度生まれ	18.9	63.1	44.2	12歳時	18.5	53.7	35.2	11歳時
	52	18.9	63.5	44.6	13歳時	18.7	53.2	34.5	10歳時
	61	19.1	64.2	45.1	11歳・12歳時	18.8	53.8	35.0	10歳時
	4	19.1	63.3	44.2	11歳時	18.9	53.2	34.3	10歳時
	平成 9	19.1	63.0	43.9	11歳時	18.7	52.3	33.6	11歳時
座高 cm	昭和 42 年度生まれ	62.8	91.8	29.0	12歳時	61.6	85.7	24.1	9歳・11歳時
	52	62.3	91.7	29.4	12歳時	62.2	85.6	23.4	10歳時
	61	61.6	92.6	31.0	5歳時	61.2	85.9	24.7	5歳時
	4	61.9	92.0	30.1	11歳時	61.3	85.7	24.4	5歳時
	平成 9	61.8	92.6	30.8	11歳時	61.2	85.6	24.4	5歳時

- (注)1 総発育量とは、例えば昭和42年度生まれの総発育量は、昭和42年度生まれの「17歳時の体格」から「5歳時の体格」を引いたものである。
- 2 年間発育量とは、例えば、昭和42年度生まれの「5歳時」の年間発育量は、昭和49年度調査6歳の者の体格から前年度調査5歳の者の体格を引いたものである。
- 3 出生年度については、例えば、「昭和42年度生まれ」とは、昭和42年4月2日から翌年4月1日までに生まれた者をいう。

図2 年間発育量の30年前との比較



(注) 年間発育量とは、例えば、平成9年度生まれの「5歳時」の年間発育量は、平成16年度調査6歳の者の体位から平成15年度調査5歳の者の体位を引いたものである。

II 健康状態

1 疾病・異常の被患率等別状況(表7、別表3)

疾病・異常を被患率等別にみると、幼稚園及び小学校においては「むし歯(う歯)」の者の割合が最も多く、小学校では、次いで「裸眼視力1.0未満」の順となっている。

中学校、高等学校においては、「裸眼視力1.0未満」が最も多く、次いで「むし歯(う歯)」の順となっている。

表7 主な疾病・異常被患率

順位	幼稚園		順位	小学校		中学校		高等学校	
	区分	%		区分	%	区分	%	区分	%
1	むし歯(う歯)	23.0	1	むし歯(う歯)	48.2	裸眼視力1.0未満	58.1	裸眼視力1.0未満	65.8
2	歯列・咬合	3.2	2	裸眼視力1.0未満	32.5	むし歯(う歯)	44.9	むし歯(う歯)	56.0
3	アトピー性皮膚炎	1.9	3	鼻・副鼻腔疾患	5.9	歯垢の状態	5.0	歯垢の状態	4.4
3	ぜん息	1.9	4	その他の歯の疾病・異常	4.9	鼻・副鼻腔疾患	4.9	歯肉の状態	3.4
3	その他の疾病・異常	1.9	5	歯列・咬合	4.7	歯列・咬合	4.4	蛋白検出	2.8

(注) 1「その他の歯の疾病・異常」とは、口角炎、口唇炎、口内炎、唇裂、口蓋裂、舌小帯異常、唾石、癒合歯、要注意乳歯等である。

2「蛋白検出」とは、尿検査のうち、蛋白第1次検査の結果、尿中に蛋白が検出(陽性(+)以上)又は擬陽性(±と判定)された者である。

3「その他の疾病・以上」とは、この調査のいずれの調査項目にも該当しない疾病及び異常の者である。

2 主な疾病・異常被患率の推移(別表3・4)

(1) 栄養状態

平成27年度の栄養状態について「学校医から栄養不良又は肥満傾向で特に注意を要すると判定された者」の割合は、幼稚園が皆無、小学校が0.6%、中学校が0.6%、高等学校が1.0%となっており、前年度と比べると、幼稚園、小学校、中学校で減少している。

(2) 鼻・副鼻腔疾患

平成27年度の「鼻・副鼻腔疾患」(蓄のう症、アレルギー性鼻炎(花粉症等)等)の者の割合は、幼稚園が1.7%、小学校が5.9%、中学校が4.9%、高等学校が1.9%となっており、前年度と比べると幼稚園では増加しているが、小学校、中学校及び高等学校で減少している。

(3) 寄生虫卵保有(5歳から8歳時のみ)

平成27年度の「寄生虫卵保有者」の割合は、幼稚園で皆無であった。また、小学校(6歳から8歳)で0.1%となっており、前年度より減少している。

(4) 心電図異常(6歳、12歳及び15歳時のみ)

平成27年度の「心電図異常」の割合は、小学校(6歳)で2.4%、中学校(12歳)で4.1%、高等学校(15歳)で2.8%となっており、前年度と比べると各学校段階において減少している。

(5) ぜん息

平成27年度の「ぜん息」の者の割合は、幼稚園が1.9%、小学校が2.8%、中学校が1.3%、高等学校が1.4%となっており、前年度と比べると中学校で減少しているが、幼稚園、小学校、高等学校では増加している。

(6) むし歯(う歯)(表8・表9・図7)

平成27年度の「むし歯(う歯)」の者の割合(処置完了者を含む。以下同じ。)は、幼稚園23.0%、小学校48.2%、中学校44.9%、高等学校56.0%となっており、高等学校で前年度より増加しているが、幼稚園、小学校、中学校で前年度より減少している。

平成27年度の被患率を平成17年度と比べると、幼稚園で35.9ポイント、小学校で25.3ポイント、中学校で24.3ポイント、高等学校で18.0ポイント減少している。

中学校1年(12歳)のみを調査対象としている永久歯の1人当たりの平均むし歯等数(喪失歯及び処置歯数を含む)は、前年度より0.2本減少して1.1本となり、ほぼ毎年減少している。

表8 むし歯(う歯)の処置完了状況等の推移

単位:%

区 分	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
幼稚園											
計	58.86	53.20	52.30	45.80	48.5	x	38.2	35.90	32.4	28.1	23.0
処置完了者	24.49	20.41	20.40	17.80	17.2	x	12.7	13.20	8.9	11.4	6.8
未処置歯のある者	34.37	32.79	31.90	28.00	31.3	x	25.5	22.80	23.4	16.8	16.2
小学校											
計	73.46	71.52	67.40	65.30	66.0	61.3	62.9	57.5	54.1	51.9	48.2
処置完了者	32.78	30.86	30.00	28.40	29.8	26.3	27.0	25.4	23.8	22.0	21.2
未処置歯のある者	40.67	40.66	37.50	36.90	36.2	34.9	35.9	32.1	30.4	29.9	27.0
中学校											
計	69.17	66.66	64.00	64.60	58.8	55.7	58.5	52.8	52.4	49.6	44.9
処置完了者	37.98	34.88	34.10	37.50	33.7	30.0	32.2	28.0	27.3	26.8	23.6
未処置歯のある者	31.19	31.77	29.90	27.10	25.2	25.8	26.3	24.7	25.0	22.8	21.2
高等学校											
計	73.99	71.17	73.40	72.60	69.1	62.2	62.1	57.1	59.4	53.0	56.0
処置完了者	43.53	38.19	41.70	38.80	37.3	34.2	35.8	29.8	34.9	29.4	32.8
未処置歯のある者	30.46	32.98	31.70	33.80	31.8	28.0	26.3	27.3	24.5	23.6	23.2

(注)1 四捨五入の関係で項目計と内訳が一致しないことがある。

2 [X]は疾病・異常被患率等の標準誤差が5%以上、受検者数が100人(5歳は50人)未満または回答校が1校以下のため統計数値を公表しない。

3 平成19年度から小数第1位までの表記となった。

表9 12歳の永久歯の一人当たり平均むし歯(う歯)等数

(本)

区 分	昭和60年度	平成7	17	23	24	25	26	27
計	5.65	3.99	2.05	1.70	1.30	1.30	1.30	1.10
喪失歯数	0.02	0.02	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
むし歯(う歯)	計	5.63	3.96	2.03	1.60	1.30	1.30	1.10
	処置歯数	3.94	2.85	1.35	1.10	0.80	0.80	0.60
	未処置歯数	1.69	1.12	0.67	0.50	0.50	0.50	0.40

(7) 裸眼視力(表10・図8)

「裸眼視力1.0未満」の者の割合は、各学校種別においてそれぞれ増減を繰り返している。

また、平成27年度の被患率を平成17年度と比べると、小学校で4.0ポイント、中学校で2.0ポイント、高等学校で1.7ポイント増加している。なお、幼稚園の今年度の被患率は公表されていない。

表10 裸眼視力1.0未満の者の割合の推移

単位:%

区 分	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
幼稚園											
計	10.65	x	15	11.70	x	x	x	x	x	x	x
1.0未満0.7以上	6.63	x	11	8.60	x	x	x	x	x	x	x
0.7未満0.3以上	3.65	x	4	2.40	x	x	x	x	x	x	x
0.3未満	0.37	x	0	0.60	x	x	x	x	x	x	x
小学校											
計	28.49	29.45	29.20	32.40	31.0	31.7	31.7	31.0	31.5	30.0	32.5
1.0未満0.7以上	10.79	10.89	9.70	11.70	9.3	10.1	10.8	10.0	10.5	9.7	10.4
0.7未満0.3以上	11.65	12.28	12.50	12.90	11.9	11.9	12.1	12.1	12.8	12.0	13.0
0.3未満	6.05	6.29	7.00	7.80	9.8	9.8	8.9	8.9	8.3	8.3	9.1
中学校											
計	56.11	51.41	58.90	57.50	59.0	61.3	60.7	56.5	58.6	58.9	58.1
1.0未満0.7以上	10.28	7.14	10.50	10.70	10.1	11.5	11.0	8.0	10.2	10.2	9.9
0.7未満0.3以上	18.61	20.09	22.20	18.30	21.5	19.9	18.4	16.6	18.1	19.7	16.2
0.3未満	27.22	24.18	26.20	28.40	27.5	29.9	31.2	31.8	30.4	29.0	31.9
高等学校											
計	64.07	x	61	65.30	68.9	x	74.4	x	x	71.70	65.8
1.0未満0.7以上	19.18	x	8	9.60	9.5	x	9.4	x	x	7.90	7.0
0.7未満0.3以上	16.58	x	15	17.10	15.2	x	12.9	x	x	13.60	14.2
0.3未満	28.31	x	39	38.60	44.2	x	52.1	x	x	50.20	44.5

(注)1 四捨五入の関係で項目計と内訳が一致しないことがある。

2 [X]は疾病・異常被患率等の標準誤差が5%以上、受検者数が100人(5歳は50人)未満または回答校が1校以下のため統計数値を公表しない。

3 平成19年度から小数第1位までの表記となった。

図3 むし歯(う歯)の者の割合の推移

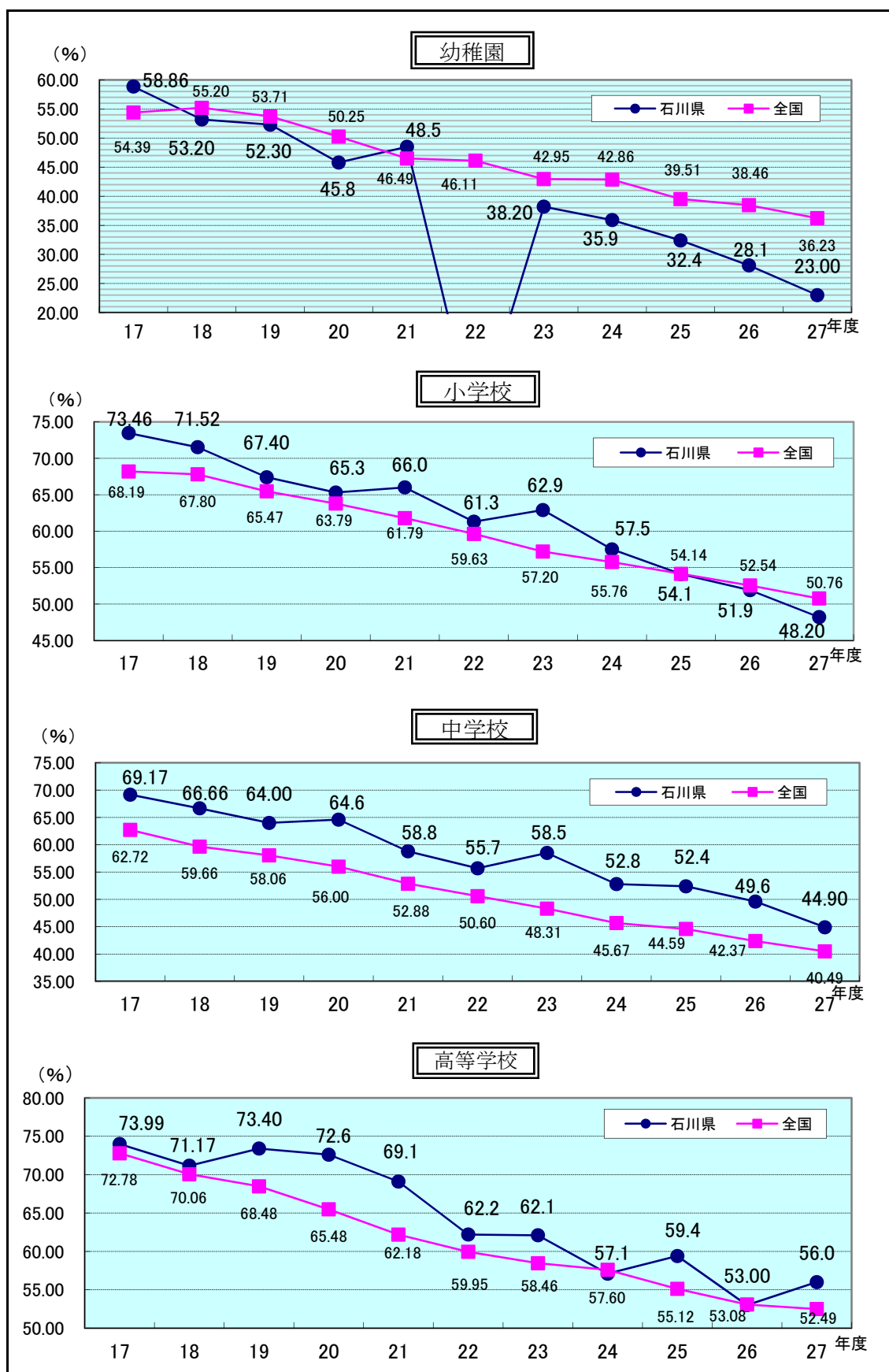
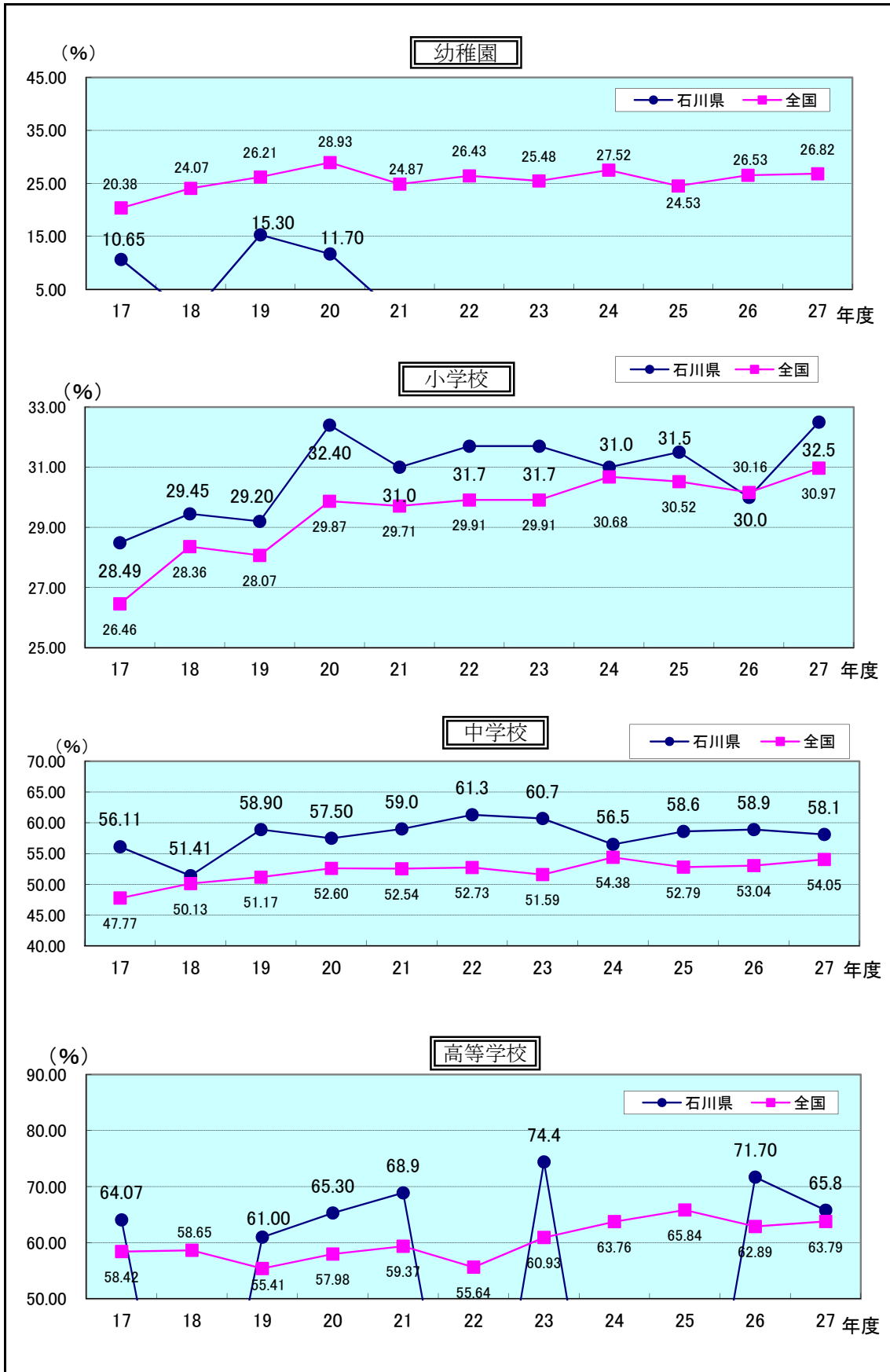


図4 裸眼視力1.0未満の者の推移



Ⅲ 全国値との比較

1 発育状態

(1) 全国平均体格との差 (表11、別表1)

① 身長

男子は、全ての年齢で全国平均値を上回っている。女子は、8歳・17歳で全国平均値と同値、他の年齢では上回っている。

② 体重

男子は、5歳・9歳を除く各年齢で全国平均値を上回っている。女子は、5歳で全国平均値と同値、5歳・8歳・12歳・13歳・17歳を除く各年齢で全国平均値を上回っている。

③ 座高

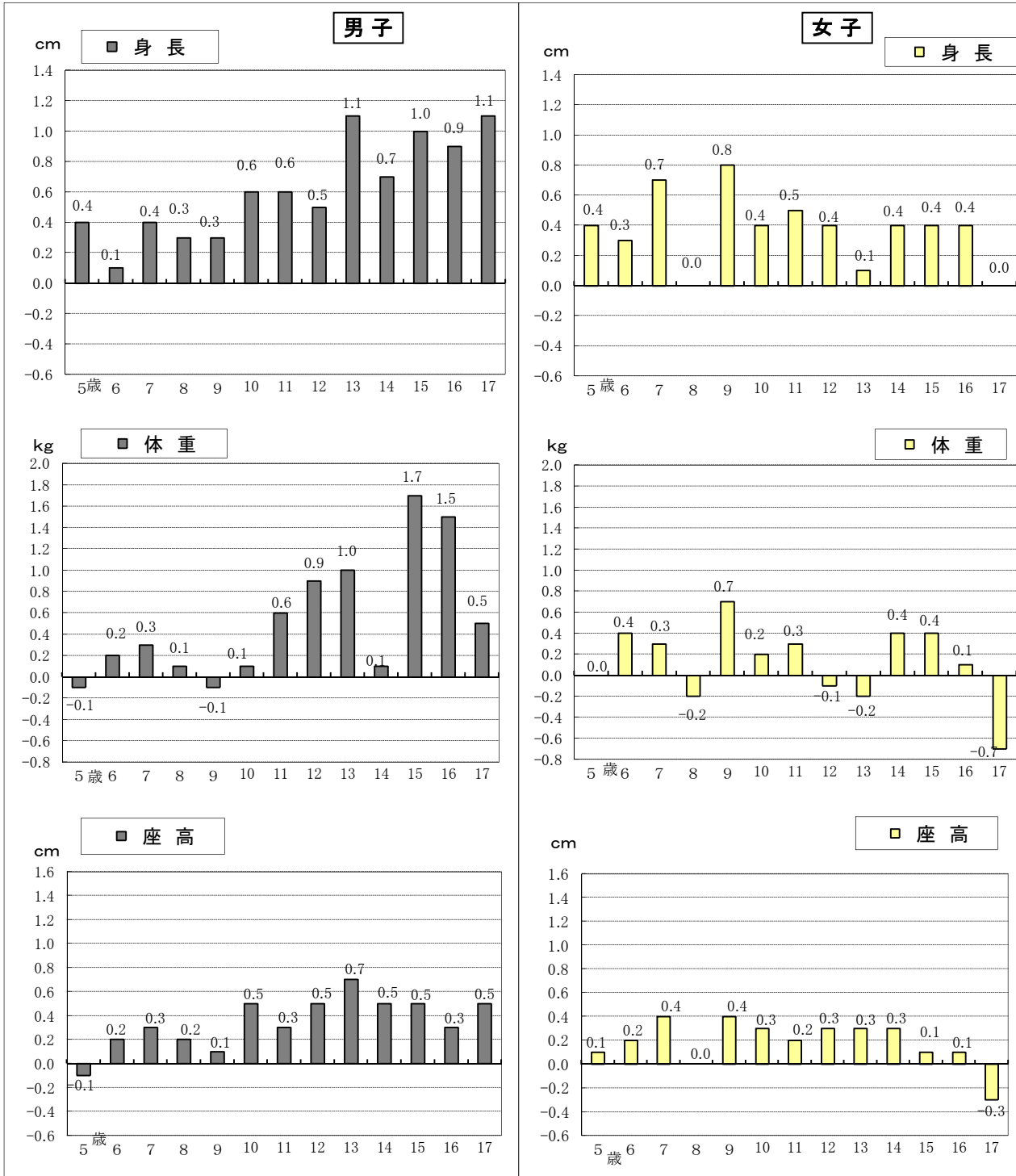
男子は、5歳を除く各年齢で全国平均値を上回っている。女子は、8歳で全国平均値と同値、8歳と17歳を除く各年齢で全国平均値を上回っている。

表11 身長・体重・座高の全国平均値との比較

区 分		身 長 (cm)			体 重 (kg)			座 高 (cm)			
		石川県 A	全国 B	差 A-B	石川県 A	全国 B	差 A-B	石川県 A	全国 B	差 A-B	
男 子	幼稚園	5歳	110.8	110.4	0.4	18.8	18.9	△0.1	61.7	61.8	△0.1
	小 学 校	6歳	116.6	116.5	0.1	21.5	21.3	0.2	65.0	64.8	0.2
		7歳	122.9	122.5	0.4	24.2	23.9	0.3	67.9	67.6	0.3
		8歳	128.4	128.1	0.3	27.0	26.9	0.1	70.4	70.2	0.2
		9歳	133.8	133.5	0.3	30.3	30.4	△0.1	72.7	72.6	0.1
		10歳	139.5	138.9	0.6	34.1	34.0	0.1	75.4	74.9	0.5
		11歳	145.8	145.2	0.6	38.8	38.2	0.6	78.0	77.7	0.3
	中 学 校	12歳	153.1	152.6	0.5	44.8	43.9	0.9	81.9	81.4	0.5
		13歳	160.9	159.8	1.1	49.8	48.8	1.0	85.8	85.1	0.7
		14歳	165.8	165.1	0.7	54.0	53.9	0.1	88.7	88.2	0.5
	高 等 学 校	15歳	169.3	168.3	1.0	60.7	59.0	1.7	90.9	90.4	0.5
		16歳	170.7	169.8	0.9	62.1	60.6	1.5	91.7	91.4	0.3
		17歳	171.8	170.7	1.1	63.0	62.5	0.5	92.6	92.1	0.5
	女 子	幼稚園	5歳	109.8	109.4	0.4	18.5	18.5	0.0	61.4	61.3
小 学 校		6歳	115.8	115.5	0.3	21.2	20.8	0.4	64.6	64.4	0.2
		7歳	122.2	121.5	0.7	23.7	23.4	0.3	67.6	67.2	0.4
		8歳	127.3	127.3	-	26.2	26.4	△0.2	69.9	69.9	-
		9歳	134.2	133.4	0.8	30.4	29.7	0.7	73.1	72.7	0.4
		10歳	140.5	140.1	0.4	34.1	33.9	0.2	76.1	75.8	0.3
		11歳	147.2	146.7	0.5	39.1	38.8	0.3	79.4	79.2	0.2
中 学 校		12歳	152.2	151.8	0.4	43.5	43.6	△0.1	82.4	82.1	0.3
		13歳	155.0	154.9	0.1	47.1	47.3	△0.2	84.2	83.9	0.3
		14歳	156.9	156.5	0.4	50.3	49.9	0.4	85.2	84.9	0.3
高 等 学 校		15歳	157.5	157.1	0.4	51.9	51.5	0.4	85.6	85.5	0.1
		16歳	158.0	157.6	0.4	52.7	52.6	0.1	85.8	85.7	0.1
		17歳	157.9	157.9	-	52.3	53.0	△0.7	85.6	85.9	△0.3

図4 男女別、年齢別体格の全国平均値との差

(全国平均値 = 0.0)



(2) 総発育量の全国平均値との比較 (表12、別表5)

17歳(平成9年度生まれ)の総発育量を比較すると、男子は身長0.7cm、体重は0.6kg、座高は0.8cm全国平均値を上回っている。女子は身長0.3cm、体重は0.6kg全国平均値を下回り、座高は0.2cm上回っている。

表12 男女別、総発育量の全国平均値との比較

区分	男子(平成9年度生まれ)			女子(平成9年度生まれ)			
	5歳時の体格 A	17歳時の体格 B	総発育量 B-A	5歳時の体格 A	17歳時の体格 B	総発育量 B-A	
身長 cm	石川県	111.2	171.8	60.6	110.3	157.9	47.6
	全国	110.8	170.7	59.9	110.0	157.9	47.9
体重 kg	石川県	19.1	63.0	43.9	18.7	52.3	33.6
	全国	19.2	62.5	43.3	18.8	53.0	34.2
座高 cm	石川県	61.8	92.6	30.8	61.2	85.6	24.4
	全国	62.1	92.1	30.0	61.7	85.9	24.2

(3) 17歳(高校3年生)の身長の全国平均値との比較 (図7、図8)

17歳の身長を全国値と比較すると、石川県は男子は全国平均値を上回っており、女子は同値であった。また、北海道から近畿地方は全国平均値を上回る場所が多く、中国、四国及び九州地方は下回る場所が多い傾向がある。

(4) 肥満傾向児の出現率の全国平均値との比較 (表13)

平成27年度の肥満傾向児の出現率は男子では15歳の13.45%、女子では11歳の8.12%が最も高く、反対に男子では5歳の1.45%、女子も5歳の1.11%が最も低い。

また、全国平均と比べると、男子は6歳・11歳から13歳・15歳・16歳において、女子は6歳・9歳・11歳・14歳において上回っている。

表13 男女別、年齢別、肥満傾向児率の全国値との比較

単位：%

区分	幼稚園	小学校						中学校			高等学校			
	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	
計	石川県	1.29	4.23	4.63	5.41	7.20	6.71	9.76	8.77	7.69	6.72	10.68	8.00	7.06
	全国	2.29	3.84	5.13	6.51	7.98	8.62	8.91	9.13	8.04	7.55	9.60	8.35	8.99
男	石川県	1.45	4.01	4.43	5.79	7.14	7.04	11.30	11.17	8.93	6.23	13.45	10.61	7.29
	全国	2.34	3.74	5.24	6.70	8.93	9.77	9.87	9.87	8.37	7.94	11.34	9.21	10.22
女	石川県	1.11	4.45	4.85	5.02	7.27	6.37	8.12	6.27	6.38	7.22	7.74	5.26	6.82
	全国	2.24	3.93	5.00	6.31	6.99	7.42	7.92	8.36	7.69	7.14	7.82	7.48	7.75

(注) 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。
 肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)

(5) 痩身傾向児の出現率の全国平均値との比較 (表14)

平成27年度の痩身傾向児の出現率は男子では11歳の3.61%、女子では13歳の3.48%が最も高く、反対に、男子では6歳の0.18%、女子では6歳で皆無となっている。

また、全国平均と比べると、男子では7歳・11歳・13歳・14歳、女子は8歳で全国平均値を上回っている。

表14 男女別、年齢別、痩身傾向児率の全国値との比較

単位：%

区分	幼稚園	小学校						中学校			高等学校			
	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	
計	石川県	0.25	0.09	0.59	0.89	0.94	1.10	3.17	3.08	2.80	2.14	1.42	0.90	1.38
	全国	0.43	0.45	0.50	0.88	1.81	2.76	3.07	3.51	2.62	2.31	2.51	2.07	1.82
男	石川県	0.31	0.18	0.79	0.63	0.73	1.47	3.61	2.72	2.15	2.09	0.95	0.57	1.07
	全国	0.40	0.41	0.47	0.79	1.60	2.81	3.18	2.72	1.80	1.72	2.62	2.18	2.07
女	石川県	0.19	-	0.39	1.15	1.16	0.71	2.70	3.48	3.48	2.19	1.92	1.24	1.69
	全国	0.47	0.48	0.53	0.98	2.02	2.71	2.97	4.33	3.49	2.93	2.40	1.96	1.57

(注) 痩身傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が-20%以下の者である。
 肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)

図7 17歳男女平均値の推移

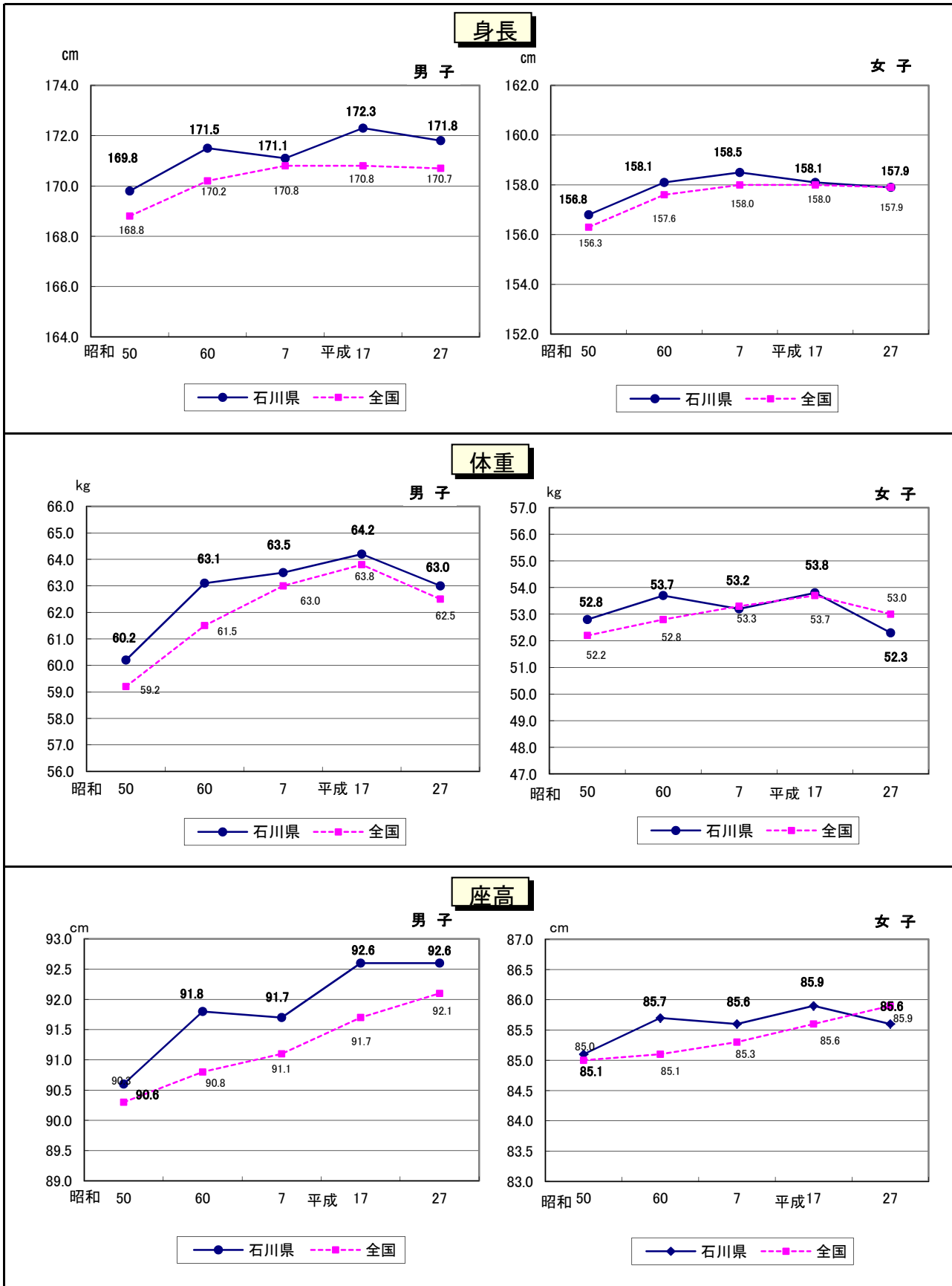
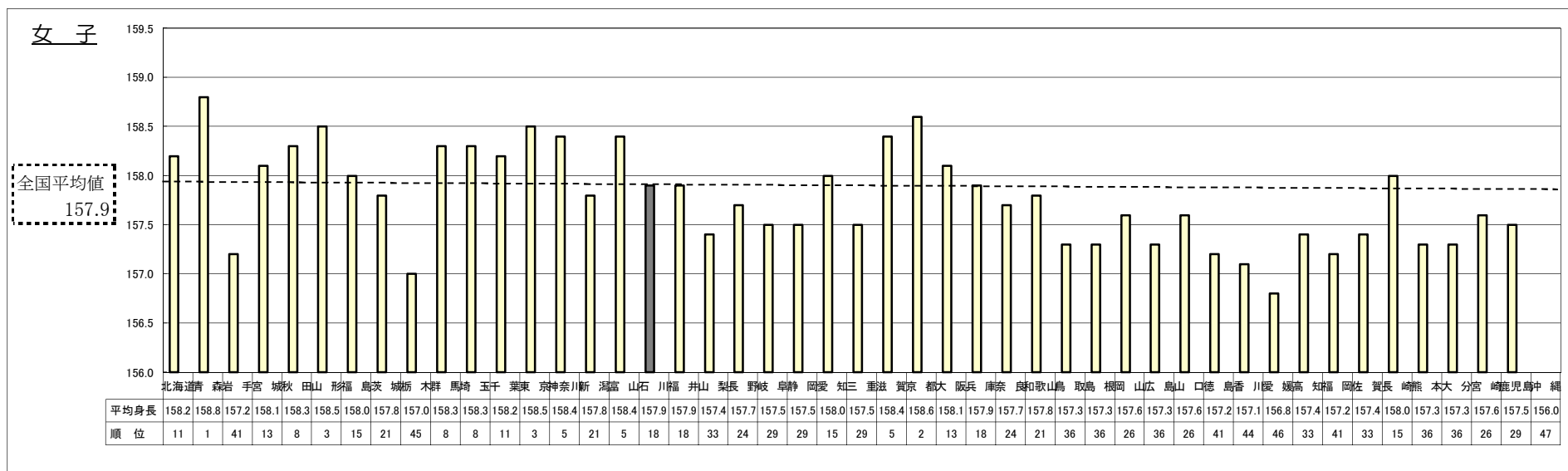
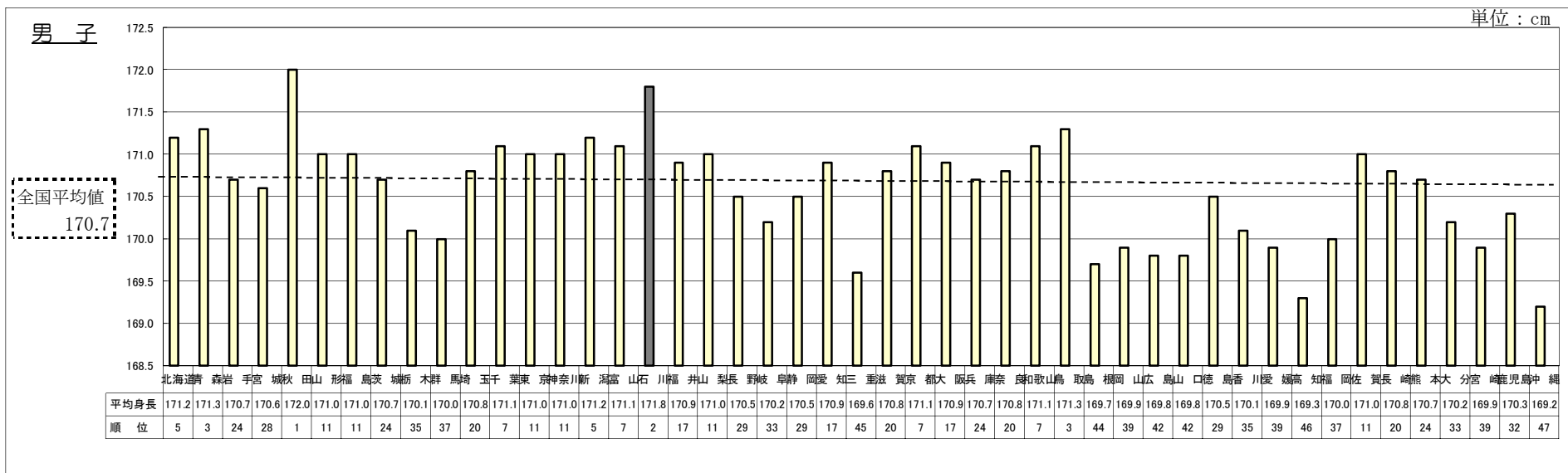


図8 都道府県別17歳の平均身長

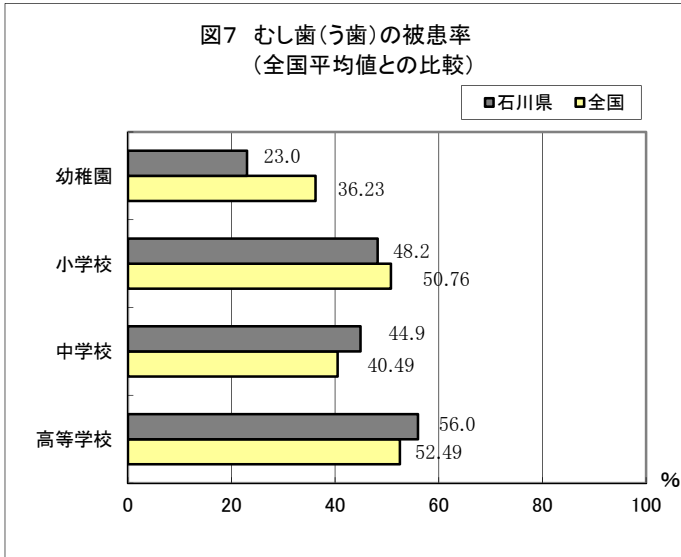


2 健康状態

○ 主な疾病・異常被患率の全国平均値との比較(図7・8、別表3参照)

(1) むし歯(う歯)被患率の全国平均値との比較

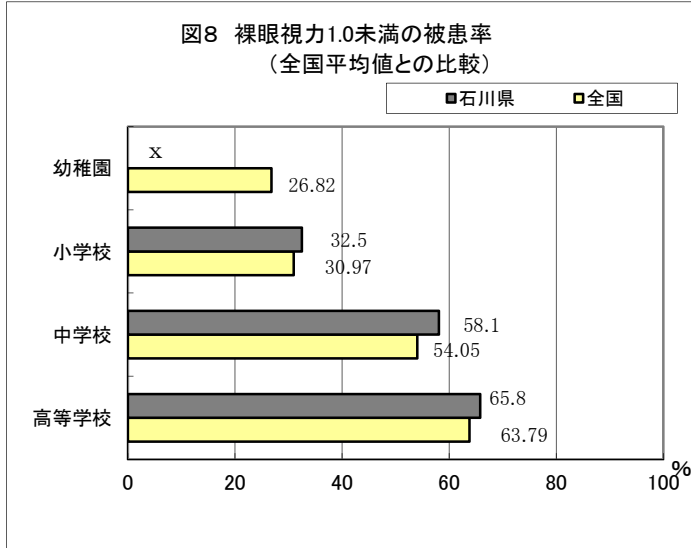
むし歯(う歯)の被患率は、中学校で4.41ポイント、高等学校で3.51ポイント全国平均値を上回っているが、幼稚園は13.23ポイント、小学校は2.56ポイント全国平均値を下回っている。



(注) 全国数値は小数第2位まで、石川県数値は小数第1位までを表記。

(2) 裸眼視力1.0未満被患率の全国平均値との比較

裸眼視力1.0未満の被患率では、小学校で1.53ポイント、中学校で4.05ポイント、高等学校で2.01ポイント全国平均値を上回っている。



(注) 全国数値は小数第2位まで、石川県数値は小数第1位までを表記。